

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590300018		
法人名	社会福祉法人 相和会		
事業所名	ビハーラ横手グループホームぬくもり(東ユニット)		
所在地	秋田県横手市上境町字谷地中136番地		
自己評価作成日	令和5年8月20日	評価結果市町村受理日	

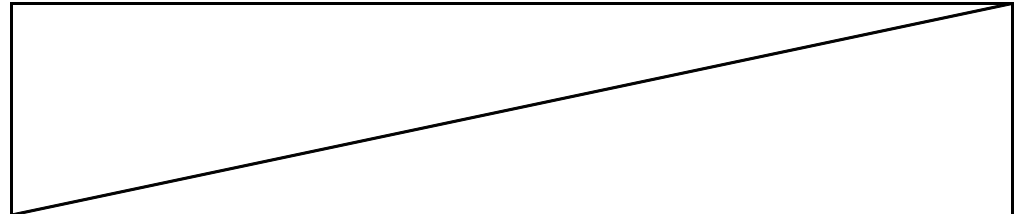
#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常勤の看護師を配置しいつでも医療との連携が取れる体制が整っており安心して過ごすことができております。また、寝たきりの状態になっても変わりなく入浴が出来るよう特浴の機材も設置し最後まで当事業所で過ごせる環境を整えております。また、コロナ禍でなかなかボランティアの受け入れや外出行事が行えておりませんが今後感染防止対策をしながら以前の生活に近づけるよう取り組んでいきたいと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】



#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年9月26日		

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットで理念を掲げ、ホールに大きく掲示し毎日言葉にする事で共有を図りながら理念にそった介護の実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ぬくもりで食べているお米は地域の生産業者から購入したり味噌醤油も地域の物を使って食べている。髪染めに地域の美容院に歩いていったりもしている。その他に地域の婦人会による調理のボランティアの受け入れや地域のお祭りへの参加なども行っていたが、現在はコロナウイルス感染予防の為出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	以前は地域の集まり等に行って認知症についての説明会等を行っていたが、コロナ禍になってから行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回の開催とし家族代表、婦人会代表、地域代表、市の職員の方々の参加をいただき、様々な意見を頂戴しサービスの向上に繋げている。また、認知症介護での取り組み内容なども伝え地域へのアピールの場としても活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場にて行政担当の職員の方に事業所の実情やサービス内容や取り組み等を伝え、助言等をお願いし協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしている入居者はいない。研修や勉強会で身体拘束及び虐待について学び、法律や制度を理解した上で今後も虐待ない施設、身体拘束のない介護を目指し努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に権利擁護に関する研修を行っている。また家族からの財産や相続等の相談も市の窓口や社協の窓口等に繋がったりと対応している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用いて説明している。また、気になった時は必要に応じて電話での相談や説明をおこない出来る限りわかりやすく説明するよう対応している。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	現在苦情等はないが、いつでも苦情や意見を受け付けれる様に玄関に苦情受付箱の設置や苦情受付の窓口の掲示をしている。		
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	施設長とは最低年に1回は個人面談し管理者とは日々の申し送り時や日常で業務の話や相談をしている。相談内容によっては緊急で主任、副主任等が集まり業務の変更調整を行い出来る限り働きやすい環境作りに努めている。		
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍になってから外部への研修や同業者との交流機会がなくなっている。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を聞いて、サービスに反映させて耳を傾けながら安心できる関係作りに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話連絡やケアプラン、アセスメントなどで家族の要望を確認し、安心して生活をして頂ける様な関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は行って頂き、レクリエーション等の活動を通し信頼関係を築ける様努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力を得ながら共に本人を支えていく関係を築けている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	県外にいるご家族や兄弟との面会を行っている。電話や手紙については行える方がおらず、行えていない。		
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションを取り、利用者同士が関わりを持てるように支援している。食事の席等利用者同士の関係を考慮している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所との契約終了が入居者が亡くなった場合のみなので、その後の当人との関係の維持が出来ない状態であるが家族との関係は引き続きボランティアや慰問という形での付き合いが繋がっている。また電話での相談にも対応している。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から希望を聞いたり、入所時にご家族さんから確認している。日々の会話の中から把握に努めている。		
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴は職員で共有し、好きな事や習慣にしている事等確認して継続出来るよう支援している。本人やご家族との会話から把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	職員間で意見交換したり、ユニット会議などで話し合いをし、現状に合った介護計画作成に努めている。ご家族とは面会時や電話、書面などで情報交換している。		
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の話し合いや個別記録の入力をし情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源はたくさんあるが、把握できておらず活用できていない。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GHぬくもりでは入居時に当事業所の嘱託医へ主治医の変更をお願いしているが、眼科や形成外科などの専門医の場合は長年付き合いのある病院を継続して使い関係性の維持をしながら適切な医療の継続を図っている。薬局との関係も良好であり服薬変更時や形状の変更など迅速に対応していただいている。		
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態や気づいた事を記録に残し、看護師へ都度申し送りをする様にし、指示を受け対応している。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急の対応について協力病院を定め迅速に対応できるよう準備している。実際に入院の際は入院時に情報をまとめた物を病棟へ渡したり、退院時には看護サマリーを頂いたり、電話でのやり取りだったり連絡を密にとり情報交換に努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重篤化した場合における対応の指針について家族・本人に説明し同意を得ている。実際に重篤化や看取りの段階に入った場合は場をもうけ、主治医の方から説明しその場で今後の方針を決めて対応している。また、その都度方針の確認を行い出来る限り家族の意向に副った対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍になってから実践での訓練として感染対策について個別に研修を毎年行って来たが応急手当や急変時の初期対応の実践訓練は行ってない。(以前は行っていた)		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い一回は夜間想定での訓練とし行っている。また災害対策として横手市との地域協定も結び要援護者の受け入れ体制を整えている。避難訓練の実施については運営推進会議を通して地域に発信しているが参加までは至っていない。		
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対しての声掛けに対しては全職員心掛ける様にしている。また、入浴時、トイレ介助時には他の方から見えない様プライバシー保護を行っている。施設内研修・内部研修を通してプライバシー保護について研修を行う事が出来ている。		
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床介助時・離床時に、髪を整えたりしている。男性の方は毎日髭剃りを行っている。また、顔の産毛など見られた際は、入浴時に剃ったりしているが、その人らしい身だしなみにしているかは心配であるが、日常生活を過ごす上での身だしなみに努めている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態に合わせた食事形態を提供し食事を楽しんで頂ける様なメニューにように努めている。また、お手伝い出来る方には、野菜の皮むきやテーブル拭き、お盆拭きをお願いしている。		
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事形態・量の提供を行っている。食事・水分摂取状況については随時看護師に報告。体調や状態によって経口摂取が出来ない方に関しては主治医の指示のもと看護師が点滴を行い対応している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを実施する事が出来ている。うがいなどが困難な方に対しては口腔ウエットを使用し対応している。義歯を外す事に対して抵抗がある方に対しては、日中に外して洗浄する様に工夫し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し対応出来ている。それを元に一人一人の排泄パターンの把握を行っている。把握する事でトイレ誘導や声掛けを行う事で排泄の失敗やパット使用を減らす事が出来ている。		
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳・ヨーグルトなどの乳製品を毎日摂取するように対応している。また、食事の際に食物繊維を多く取り入れている様にしている。(ヨーグルト、フルーチェ、プリンや牛乳寒天など)		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯を決め、浴槽には入浴剤を入れて入浴して頂いている。時間については職員の都合で短めになってしまっている。		
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室、ホールの行き来は自由にしており、車椅子の方も本人希望や疲労感が見られた際には居室へ誘導し休んでいただいたりしている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個人個人の薬について書かれている用紙を確認し、副作用や用法等について把握できる様努めている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動や軽体操、口腔体操、また行事へ参加いただき、気分転換等を行っている。洗濯物たたみや、お盆拭きは出来る方に役割を持って行って頂いている。テーブル拭きは、自分の席の部分それぞれ全員行って頂く事もある。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染流行の為、外出は思うようには行けない状況。天気の良い日に希望があった際は施設周辺を職員と一緒に散歩を行っている。また美容院希望で独歩出来る方は、近所の美容院へ徒歩で通う事も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で金銭管理を行っている為、現在はお金を所持している方は居ない。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花見ドライブ等の行事の際の写真や、季節を感じられる壁面飾り等で季節感を感じられる様に工夫している。		
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内や廊下にソファやベンチを置き、棟内の散歩途中でもすぐに休めるように工夫している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が昔から使用している時計や、ラジカセ等を持参し、居室で居心地よく過ごせるようにしている。		
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分かりやすいように表記したり、安全に生活していただけるように工夫している。		